

「63・3」申15号団交開催(2/22)

「一度提案したものは絶対に変更せぬ」
「そんな目茶苦茶な団交があるか!!」

交番順序の組み換えすら
を一切うけつけぬ反動姿勢

二月二十二日、①食事時間の確保、
②在宅休養時間の確保、③大形仕業、
ロングランの解消、④交番順序の変更
についての動労千葉申十五号に関する
団体交渉が開催された。

しかし、この働く者の切実な要求に
対し、当局の「回答」は、「就業規則
の範囲内で作成しており、問題はない」
「交番表とか仕業は会社側の責任でや
ることであり、団体交渉の場で指摘さ
れて変えるというような問題ではない」
「あくまでも会社が作って指定してい
くものであり、変更する考えはない」
と強弁し、実際に現場で働く者の声に
は一切耳を借さないという、全く不誠
実な対応であった。

ここには、労働組合や、現場の労働
者からの要求・意見を聞くなどもって
のほか、組合側の主張がどのように正
当なものであり、当局側に矛盾があつ
ても、一度提案したものを修正するな
どもってのほかであるとする、現在の

JR当局の異常な労務支配の姿が鮮明
に現われている。

現場の声、労働組合の主張
を理由なく拒否

このような姿勢が最も鮮明に現われ
たのは、交番順序の組み換えに関する
要求についてである。動労千葉は、職
場討議にもとづいて、木更津支区の交
番順序を別表のように組み変えるよう
要求した。これによって、公休から公
休までの乗務キロのアンバランスが解
消され、かつ公休翌日の出勤がずつと
楽になり、働きやすい交番になるのだ
がある。これは、要員等にはね返る問題
の一切発生しない事案である。本来で
あれば現場に働く者の意見で、その日
のうちにもかんたんに変更のできる性
格のものである。しかも、誰が見ても
組合案によって勤務が改善されること
は、一目瞭然である。そして、何より
も、実際に働く者が現場の総意として
作った案なのである。これを否定しな
ければならない理由など、どこをどう
さがしても一つも出て来るはずはない

のである。

しかし、現在の千葉運行部当局は、
これに対し、「当局の責任で作ったも
のであり、団交の場で指摘され変える
というような問題ではない」とテーブ
レコーダーのようにくり返すのみなの
である。全く異常な光景としか言いよ
うがない。働きやすい勤務にすること
がなぜいけないのか!?

動労千葉・国労潰しを

全てに優先させる当局の

労務支配を許すな!

このような、団交ならざる団交の背
景には「組合の言うことなど一切聞
くな!」「一度提案したものはどんなこ
とがあろうと変えるな!」「動労千葉
・国労を潰せ!」と髪を振り乱してわ
めきたてるJR当局の姿勢があるので
ある。われわれは、動労千葉・国労を
潰すためには手段を選ばない、動労革
マル・鉄道労連と結託した一部当局を
断じて許す訳にはいかない。「六三・
三」を粉砕しよう。

「山手線内からの国労組合員の排除」「国労過半数職場の 一掃」を狙う、大量強制配転攻撃を許すな 国労東京新橋支部

現在、国労東京地本に対して、革マル・鉄道労
連、当局一体となったさましい国労破壊の攻撃
がかけられている。国労東京地本新橋支部の駅関
係を中心として、「国労過半数職場の一掃」「山
手線内からの国労組合員の排除」を狙った大量の強
制配転が強行されているのである。一月十八日か
ら開始されたこの強制配転は、一月二十一日現在、
新橋支部だけで、実に百十一名におよんでいる。
しかも、役員・活動家が狙いうちにされている。
われわれは、この攻撃のなかに、JR当局が、
動労千葉・国労破壊をあくまでも最優先課題にお
き、虎視眈々と狙い続けていることを、はつきり

「63・3」の狙いは、 国鉄労偽運動破壊

と見すえなければならぬ。「六三・三ダイ改」
も、そして住田が公言する「六万人体制」も、実
は、最大の狙いは、動労千葉・国労潰しである。
現在、助役（鉄道労連組合員）等を使った直接
的な組合脱退強要が、また再び全国で、隠然・公
然と開始されている。
動労千葉は、あくまでも闘う姿勢を貫き、首を
かけ、ストライキをも辞さず闘いぬいたからこそ、
現在もなお、運転職場の第一組合として力関係を
守りぬき、団結を守りぬいて現在に至っているの
である。この教訓を今一度かみしめ、新たな国鉄
労働運動解体攻撃を打ち破ろう。